Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

SMP046-12 会場:201B 時間:5 月 27 日 11:30-11:45

四国三波川帯のエクストルージョナルウェッジを切る大規模アウトオブシークエンススラストおよびデュープレックス
Wedge extrusion followed by major out of sequence thrusting accompanying duplexing, the high P/T Sambagawa blue schist

遅沢 壮一 [1*]
Soichi Osozawa[1*]

[1] 東北大学理学研究科地学専攻
[1]Tohoku University

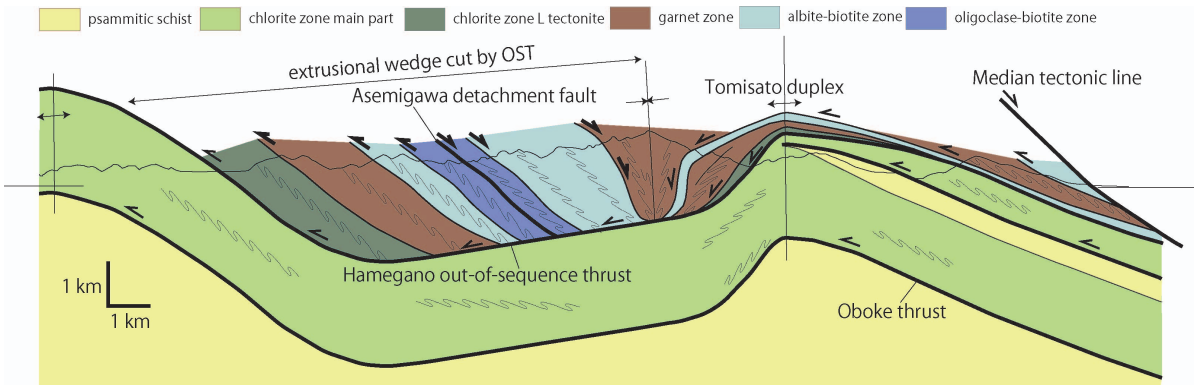
カラー地質図出版のための、地元博物館，市役所、役場など、スポンサーを募集しております。500 部 20 万円程度でできます。

新居浜大生院?大歩危地域まで、三波川帯高度変成岩分布域を中心に、広範囲の構造地質学的地質調査を行い、2 万 5 千分の 1 地質図を作成した。東野（1990）が三波川帯のベースマップになっているが、それ以来の大改訂である。マッピングの結果、変成岩のエクスヒューメーションに関する、つまり D2 の、これまで知られていなかった大構造を明らかにすることができた。

既に Osozawa and Pavlis (2007) で報告したように、初生的には、D2 エクストルージョナルウェッジで、三波川帯高度変成岩はエクスヒュームしている。中軸に汗見川デタッチメント断層があり、それを境に北には正断層群、南には逆断層群が発達し、これは新居浜、別子地域まで、エクロジャイトを中軸にして、汗見川から、そのまま追跡される。ところが、東の高知自動車道路が通過する立川には連続しない。従来は向斜で説明されていたが、この不連続は、蛇野（はめがの）アウトオブシークエンス低角逆断層（OST）で高度変成岩、またエクストルージョナルウェッジが切断されているからである。向斜は OST 上盤には発達するが、下盤では不明瞭で、互いに構造的に不調和である。OST は緑泥石帯を２分した位置を通過する。上盤の緑泥石帯は多色片岩からなる典型的な L テクトナイトで、非常に明瞭な鍵層である。下盤の泥質片岩の D2 褶曲は OST の運動により破壊されていて、これも一種の鍵層をなしている。従来の別子ユニットは蛇野 OST で２分される。また、エクロジャイトを含めて、高度変成岩は根無しである。なお、以上からも、Mori and Wallis（2010）でも指摘されている横臥褶曲は不存在であり、結果的に、青矢ほか（2009）を含めて、彼らの構造区分も成り立たない。

OST 上盤にはある向斜について、両翼の岩相と構造は全く対応しない。エクストルージョナルウェッジは南翼のみにみられる。北翼には、構造的最下位の大歩危砂質片岩も参加する大歩危背斜がある。なお、砂質片岩は本体より構造的上位に、背斜の北翼のみだが、発達している。OST 上盤の大歩危背斜には、オリゴクレース帯以外の高度変成岩ユニットが参加するデュープレックスをなしている。

三波川帯はまず、中央構造線沿いに、南へのウェッジエクストルージョンでエクスヒュームを開始したが、直ちにウェッジは OST で切断され、上盤のこれら移動岩体は大歩危背斜でスタックし、デュープレックスをなして、最終的にエクスヒューム・定置した。



キーワード: 四国三波川帯, エクストルージョナルウェッジ, アウトオブシークエンススラスト, デュープレックス, エクスヒューメーション, D2

Keywords: Sambagawa high P/T zone, extrusional wedge, out-of-sequence thrust, duplex, exhumation, D2